

## 第11回 中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会会議録

○ 日 時

平成25年12月26日(木) 午後3時～午後5時

○ 場 所

中野市豊田支所 2階 大会議室

○ 出席者

【審議会委員】

小島哲也会長、清水正副会長、上原一雄委員、下川昌平委員、永池隆委員、山岸洋子委員、小林健一委員、小島佐和子委員、伊藤勇委員、酒井美智子委員、中島武久委員、北原新一委員、柴垣顕郎委員、関うた子委員、湯本一委員

【事務局】

荻原学校教育課長、杉本学校教育課長補佐、冨田主査、渡辺主事補

○ 会議内容

●開 会 (15:03)

副会長；それでは皆さんこんにちは。今、座席に見えない方は欠席の報告がありませんので間もなくおいでになるかと思えますけれど、時間になりましたので始めさせていただきますと思います。年末の本当にお忙しい時でありますけれども第11回の中野市小学校及び中学校適正規模等審議会を開催しましたところおいでいただきまして本当にありがとうございます。よろしくお願いたします。それでは人数でございますけれども、25名中の過半数ということで13名になりますけれども、今これだけおいでいただいておりますので成立しておりますので只今から開催させていただきます。それでは小島会長から開会のごあいさつを申し上げ、それから後、今日お手元の次第を見れば今後の進め方と大きな文字で書いてあります。今までも2回にわたって、たくさんのそれぞれご意見をお聞かせいただき、その反省に基づいて、どのように挑むかを再度、案を立てたところを会長のほうから皆さんに申し上げますので、またよろしくご審議いただいで前に進むようにと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

小島会長；皆さんこんにちは。のどの調子があまりよろしくないのマイクを使わせていただきます。年末、しかももう押し迫っておりますのでこういう時期にお集まりいただくのは非常に申し訳ないんですけども、それでもやるべきことがなかなか進んでいかないというか、目標に向けてひとつずつクリアして来たつもりですので、よろしくお付き合いください。今日の会議の事項、1、2とありまして「今後の進め方について」これはここ数回続いております。今後どういように審議会作業を進めていくかということについて、あらためてまたお諮りしたいと思っております。よろしくお願いいたします。できるだけ早めに、今日会議が終わるように進めていきたいと思いま

すのでご協力よろしく申し上げます。

今後の進め方について、私のほうで10月の末の第9回の審議会、それから前回の審議会と作業部会のほうで検討していく、中でもアンケート調査・聞き取り調査を踏まえた答申にしたということ提案させていただいたのですけれども、いろんな意見が出まして、それがまだ宙に浮いたままになっています。ただ、前回のいろんな意見をお聞きして以降、個人的にもご意見をお聞きした方もいらっしゃいます。それから資料を提供していただいた委員の方もいますので、それらを踏まえてもう一度、再提案というか10月にお示した作業部会の提案について、ある程度説明し直してこういうふうに進めて行きたいということを今日、提案させていただこうと思います。お手元の資料をちょっとご覧ください。事務局のほうへお願いして、私が用意した全部で6枚ものの資料がございます。これは北原委員に資料をこんなのがあるよということで提示していただいたものの一部、それから私も興味を持って調べたものをくっつけたものです。資料の1が表裏印刷になりますが、日進市という愛知県の名古屋市と西隣に隣接している日進市の市立小中学校の適正規模および適正配置に関する基本方針ということで、もうすでにこの日進市の教育委員会が24年の8月に公布した方針の資料です。ということは、この適正規模および適正配置に関する基本方針が教育委員会から示される前段で諮問された委員会が答申をやっております。その答申の資料が3ページ、資料2として委員会の答申ということでこれが23年の3月です。それを受けて基本方針というのが8月に出たということです。この資料をなぜ今日持ってきたかといいますと、ちょっと振り返っていただくと、10月31日第9回の我々の審議会で、私、小島の名前で当日配布した資料はお持ちでしょうか。お持ちでしたら見ていただきたいんですけども。今後の進め方ということで作業部会を立ち上げてこんな作業をやりたいんだけどという話をさせていただきました。その今後の進め方についてということで、(3)-2になりますが、集中審議を進めるに当たって作業部会を設けたいと。4つの作業部会で作業を進めて行きたいと提案させていただきました。その内容は、学校教員を対象にしたアンケート調査、それから学校PTAを対象にしたアンケート調査、これが部会1、部会2です。そして部会3、3つ目の作業を引き受ける部会の内容は、適正配置、通学区、通学方法のシミュレーションその他、ということでかなり実務的というか具体的な検討をしてもらおうということ。それから最後の4つ目の部会としては、統廃合という対応が求められるのは目に見えていますので、その統廃合後の学校と地域のあり方の検討も含めて、その他検討する部会をとということで4つ作業部会を設けることを提案させていただきましたが、この審議会では皆さんご記憶の通り、アンケート調査そのものに対するいろんな意見がありまして、もっと慎重にどういう趣旨で何をどう調査するかってことをこの審議会のほうで議論しないとすぐには部会を立ち上げてってということにはならないということで、11月の審議会でも、そのことに関する議論が続きました。それを受けて今日、年末になってしまったんですけども、じゃあどんなアンケートをしたらいいかということ先ほど言いましたように何人かの方にもご意見いただいたことがあって、日進市というひとつの資料を今日お示しして、例えばこういう調査のやり方もあるんだよということをお示しして、まずご意見を伺いたいと思

ます。そのうえで、いや、愛知県のどこにあるかわからない、どんな市の審議会かわからないんだけど、それを後追いするような審議会ではありませんので我々としてはどういような審議を進めて行きたいかということのを改めてご意見をお聞きしたいと思いますが、出来るだけ具体的に今日は先が見えるような議論に進めて行きたいと思います。そういう背景で資料をお読みさせていただきました。後で必要に応じて北原委員のほうから補足もいただけると思いますが、まずは私のほうからちょっとこの資料について理解している範囲で説明をさせていただきたいと思います。資料が2つあるというのは先ほどお話ししたとおりです。教育委員会で示された基本方針がこんなふうに、これは一部なんですけれども、項目としては現状、裏側には効果、飛んでますけれども、実は日進市の総人口が中野市とそれほど変わらない、平成23年度41,402人ということで、中野が確か4万4千ですかね。だからちょっと少ないということですけども実は日進市というのは私の知人が市役所に勤めていて結構いろいろ話を聞いたんですけども、今、人口流出ではなくて、名古屋市のベッドタウンで人口が増加している。つまり小中学校の児童生徒数も増えているということです。確かに地図を見ましたら東名高速道路、それから最近注目のリニア新幹線のルート上に当たっているし、名古屋から延びる地下鉄が走っていますので通勤・通学に利用する若者がたくさん、あるいは仕事をする若い方がたくさんいるということで、ベッドタウン化してという状況、です。中野市が抱える小中学校の現状とはまた違って、ここに書いてある通り将来の推移のところ人数については児童生徒数増加の見込みということですね。学級数もということです。増加し続けるということで小中のシミュレーションというか予想をしています。ただ、この中には1校だけ小学校が小規模校という現状があって日進市はその小規模化が進んでいる学校への対応と大規模超、大規模を超えるぐらいの学校になってしまうその対応をどう考えたらいいかということで基本方針が出された様です。これ自体については、そういう現状がかなり違っているところの話ですよということでお示ししておきますが、私自身もこの審議会で我々が審議して答申した結果、中野市の教育委員会でどういう形でその答申を受け止めて、何が決められるのかということのをあまり正直に言うと具体的に見えてきていないです。教育長の先日の話の中で具多的な作業の工程とか内容についてはあまり発言がなかったんですけども、日進市では例えば学校別の考え方ということで現存する9つの小学校については推移を見守っているだけでよろしいと、そういう書き方はしないですけども、推移を見守るしか書いていませんので緊急に何か対策を講じなければいけないという現状ではなさそうだとこのように見えてまいります。だから中野市ではどうなるんだろうということもちょっと気がかりなところです。さてその3枚目以降、これが今の教育委員会の基本方針を出すに当たって、23年3月に答申が出されていますが、その中で学校適正規模等に関するアンケートの調査をやったその集計結果がまとめられて公開されています。我々審議会では例えば先ほど提案の部会の話をしましたけれども部会の1でアンケート調査をしたいというふうに提案していますけれども、その部会でアンケートをすれば、こうしたアンケートのあり方もかなり有効だなというふうに思いますので紹介させていただきます。日進市でこの調査をするに当たって小学校中学校の保護者、そして小中の先生方を対象

にアンケート調査をやっているらしいです。我々審議会では学校の先生方を対象とした調査については聞き取り調査をしたいということで、副会長の清水先生のほうからもお話があったかと思いますが、日進市では保護者と同じように学校の教員、小中の先生方を対象にほぼ同じ質問を投げかけて回答を求めています。そういう調査であるということをお含みください。目的としては検討委員会とありますが、検討委員会が学校の適正規模および適正配置に関する基本方針を検討するに当たって意識を把握する。今後の基本方針の策定に向けての参考とするということであつてあります。調査対象になったのは2年と5年、中学生については2年生ということで、実施時期が9月ということですので我々今の時期、もうそろそろ来年度ということで学年が変わる時期にやるとすれば2年と5年というのは、実質3年生6年生ということになっちゃうんですけど、日進市は年度途中の2学期で2年生5年生を対象にしています、その保護者です。そして小中学校の先生は、ここは私、全員なのちょっと把握していません、申し訳ないですけど学校の教員を対象にした調査をやっております。マークシートで回答を求めています。9月の末に行っています。調査項目については1から11までここにリストアップされていますように、小も中も学年あたりあるいは学級あたりの望ましい学級数それから児童数それから理由というのを尋ねています。通学の距離、方法これも小中の保護者に対して同じように切ります。それから最後の3つについては小規模校に対する望ましい対応とその理由というようにありますけども先ほど言いましたように小規模校ってこの日進市では9つある小学校のうちの1校だけ、小規模になりそうだというふうに5番目ですかね、2ページ目でいえば5番目の小学校が小規模になりそうだという見込みなのでこうした質問を用意しているということです。将来は大規模校が増えるということでそれに対する対応やその理由というもの尋ねたようです。こんなふうに調査項目については、前回の審議会でも私、他の自治体、北茨城市のアンケート調査をもとにこんな質問項目も考えられるということで想定した項目を示しましたが、ある程度似たり寄つたりの項目なんですけど、実はちょっと工夫されているところはページをめくっていただくと集計の結果が保護者の回答に関してだけなんですけれども4ページを見ると、ここに示しているのは望ましい学校規模あるいは学級規模についてという質問項目です。小学校の保護者に聞きました。問5では1学年あたりの望ましい学級数ということ、範囲をレンジを指定して選択してもらおうという形を取っているようです。そしてその理由を続けて尋ねています。問5の回答をされた理由として、最もあてはまるものを1つだけ選んでくれということで①から⑩その他を含んで想定される理由というのをここに選択肢として用意しています。これはアンケート調査のオーソドックスなやり方ですけども、ここにどういった選択肢を用意するかっていうのは、アンケートの質問を用意する、調査をする立場の者がどれだけ現状を理解しているか、回答をどれだけ想定しているか、視野を持っているかっていうことによりけりで、いい選択肢が用意されているかどうかということによってアンケートの質を決める重要な条件になると思うんですけども、私の知る範囲でいえば、できればこの選択肢をよく検討されて用意されているなと思われそうですが、実はこういうのを我々が用意する必要があります。つまり、市議会でどれだけこの問題についてじっくり議論して、保護者、地域の住民

の学校へ子ども送っているその一部の保護者ですけれども、一部の住民ですけれども、彼らがどんなふうにもこの問題について考えているのかということはある程度予測した選択肢を用意する必要がありますので我々のこの審議会の中であるいは作業部会の中でこれを、何を準備するかということが問われることだろうと思います。もちろん選択肢で中から必ずひとつ丸をつけなければいけないという問いかけだけではそれ以外の質問を回答を排除することになるので自由記述というものを入れる必要があるんじゃないかなと私も思いますし、その意見を出していただいた委員の方もいらっしゃいます。日進市ではその他に丸を付けるだけになっています。こういう問いかけをしています。もちろん続く問7では理由の2番目ということで尋ねています。ここは私ちょっとよく解らないのですけれども問5で2つ丸を付けてくれというふうに尋ねてもいいと思うのですけれども。一番の理由は何か、2番目の理由が何かというのをはっきりさせるためにこういう仕掛けになっているのかと思います。続けて話をします。5/6というところは、大体今問5についての回答理由2つを合わせて集計して結果こういうふうになりましたというのが左上に載っています。それに続けて学級あたりの児童数としてどの位が望ましいかというのが範囲を示して選択してもらうということ。そして右側で理由を聞くという同じような仕掛けになっているようです。そして最後のページ、6/6が間が飛びますけれども中学校にも聞いています、先生にも聞いていますということなんですが、4番目の項目として問13から問16にかけて学校規模および配置の適正化について過小規模校又は小規模校に対する対応として望ましい対応は何かというのを問13でひとつ選ぶ。理由は問14でひとつ選ぶ。もうひとつ右側に大規模校への対応として何が望ましいかをひとつ選び、理由をひとつ選ぶ、というこんな同じようなやり方で別の規模および配置の適正化に関して具体的な対応を対策を問いかけて保護者の意識を調査をしています。こういう調査をして全体としてこの調査だけで答申が行われた訳ではないんですけれども検討委員会の答申として、結構まとまった議論の経緯を上手にまとめたうえで委員会のほうへ答申したようです。さて、我々は中野市の審議会としてどんなふうな審議をし、それを答申に結び付けていくかということ、これを今、正に議論しているんですけれども、話を元に戻しますと10月第9回の審議会で提案させていただいた部会を立ち上げる、その中でアンケート調査や聞き取り調査を行いたいというのが具体的な作業内容のメインになりますが、それ以外にシミュレーションをしよう、それから統廃合の今後のあり方についても検討しようということで、かなり欲張ってはいるんですけれども是非とも市の小中学校の将来のあり方まで自由闊達に議論してほしいというふうな諮問も受けましたので、ここまでは是非我々やっていきたいな、そのためには多少時間がかかりすぎてもやっていきたいなと思って提案したところなんです。31日の資料では日程としては実は来月1月にはアンケート調査を終えて2月に取りまとめたいと、そして3月4月に主に原案を作る作業に入りたいというふうな見通しで提案したんですけれども、ちょっと見通しが甘かったようです。ですので時期的には後、予定が1か月、2か月ずれ込むかもしれませんけれども、あらためて集中的な審議、つまり具体的な作業を行うための作業部会を設けるということを提案させていただいて、具体的には今日、部会の中でどういうメンバーで何をやるかだけはある程度

方向を決めて新しい年を迎えたいなと思っております。ここまでのところでちょっと発言を止めてご意見をいただきたいんですけども。何か質問ご意見おありでしたら。

北原委員、日進市の資料については、こういうふうに私、理解して説明させていただいたんですけどもよろしいですか。何か間違っていないですかね。

北原委員；いえ、特に。

小島会長；ありがとうございます。どうでしょう。

柴垣委員；今の会長の提案に従って具体的な進め方のイメージをせざるを得ないんですけども、今日来ている人は13名なんですけれども、委員の中にも熱心に関わってくれる人もいれば、熱心に関わってくれない人も当然、25人あると思うのですが、4つの部会に分けるとひとつの部会が3・4名、それで例えば第1部会・第2部会のアンケートを担当する部会を例に挙げますと、今、小島会長が言われたようにこれまでの議論を基にアンケートの項目や設問の仕方を考えて、次回それぞれの作業をどの位時間がかかるかわからないですが、それを踏まえて例えば1月の会議にこういうふうにやりたいと提案をし、了承されたらばアンケートの実施に入ると、そんな感じになるかと、あるいは1か月ぐらいずれると思うんですが、結構、各部会の中で項目の内容を議論を詰めていく作業は結構大変な作業になるという気がするんですけども、1・2か月で次回にすぐ案を出せとか出来るのかどうかちょっと心配なんですけど、その辺は皆さんいかがですか。

小島会長；今の柴垣委員の問いについては、私なりのプランだけ説明させていただいて、それから小林さん、よろしいですかね。確かに時間は充分あるわけではない、かなり忙しいスケジュールの中で我々は仕事をしなければいけないんですが、アンケートについてはアンケートだけに関して言えば、来月、1月は事務局が多忙で審議会自体は予定はしていないんですが、各部会でそれぞれ作業を議論をしていただいて、2月の審議会でこういうふうな調査をしたいということで提案して、ゴーサインが出るように持っていければと思っていますので、2か月ぐらいかかるかなと、ただ審議会が月末ということになれば、じゃあ3月に調査ということになって、3月ってもう、保護者もソワソワ、先生たちも異動だなんだということになりますので、タイミング的にはもうちょっと早くやらないといけないと思っています。ですので1月中に作業を終えて大体の調査の原案を2月の中旬あたりの審議会に提案していただいて、早速に10日間位で調査に入って回収を2月中というふうにできればいいなと思っています。忙しいです。

小林委員；今、言われた内容等に絡んでですけども、この日進さんのアンケートは非常に練られていてと思います、このアンケートをそのまま採用させていただけるのであれば、これを中野市にそのままあてはめても問題のない内容かなと思います、つまりは他人の作ったものでありますが、そのまま適用して使ってしまうのではないかなと思って内容を読ませていただきました。そうすると集計のほうに割り当て、またそのあとの審議のほうにも時間を割り当てられるかなと思います。中にその他とあって、ここに項目として挙げられていないことを言いたい方はおられるんだと思うんですけどもそれもひとつのどの位の割合でいるかという意味では、その他で締めくくってしまってもいいのかなと。というのは個々の意見もすべて評価し判別してい

く作業というのはそれだけで1審議会、2審議会かかってしまうと思うので、そこはその割合という意味でひっくるめてやるしかないのかなと思いました。

小島委員；10月31日の資料を見ると作業部会が4つあってということで、例えば今、日進市を見ると、この中では小学校中学校の保護者、先生というので地域枠がないんですがそこら辺のところはどんなふうにかえたらいいんでしょうか。

小島会長；それを全員で検討するよりも部会の中で対象を決めて学年も抽出しなければいけないので、検討してもらう方がいいんじゃないかなと思っています。

小島委員；作業部会自体は4つあるという考えでいいですか。

小島会長；ええ、大枠は4つなんですけど実は、アンケートの調査と聞き取り調査というのを提案させていただいているので、ちょっと細かな話になるんですけども、作業部会1のアンケート調査は、学校を対象にしたもの、つまり小中の保護者と学校の先生を対象にしたアンケート。そして聞き取り調査。前回の提案の中には学校の先生を対象にしたアンケート調査というのは入っていませんでした、副会長清水委員のほうから提案させていただいたのは学校の教務主任、学年主任の方にその学校でどういうふうな教育的な対応をされているのか、どういう学習がそこにあるのかということをお聞きしたいという聞き取りをやるっていう提案だけでしたが、日進はご覧のように先生を対象に、保護者と同じように調査をしています。調査用紙を工夫したりすればロスなく一般の先生方の意見もお聞きできるということで、私の今の気持ちとしては、小中の保護者+先生方へのアンケート調査、そして小中の先生方、特に主任クラスの先生方への聞き取りをやりたいということを作業部会1で学校対象ということでやらせていただく、そして10月の資料とちょっとそごが出てくるんですけども作業部会2は実は前回審議会で伊藤委員その他から園の来入児の子供たちの保護者に対しても是非調査をというご意見がありましたので、中野市の将来の学校のことを考えるのに今、これから学校へという保護者の方たちの気持ち、意識を調査しない手はないと私も思いますので、作業部会2は10月の資料ではPTAと書いてますけれどもここを来入児の保護者を対象にしたアンケート調査ということで修正したいと思っています。ちょっと複雑ですみません、修正した資料を用意しておけばよかったんですけども、そんなふうにかえています。いずれも誰を対象にするのかっていうのをまだ決めていないのは実はですね、アンケートをやるにしても何部、調査用紙を用意して、そしてそれを郵送するのか、学校経由で対象の予定の保護者の方へお渡しするのか、回収をどうするのかっていうのを考えたり、それから集計、分析をどうするのかっていうことまでちょっと考えなければいけないので、前は仮に3学年やればいいのかというお話をしたんですけども、いや、2学年のほうがいいよという意見も出たり、まだ決められないところですのでそれを作業部会のほうで検討してもらいたいかなと思っています。他にいかがでしょうか。今の小林委員のほうからこのまま流用というわけではないですけども活用すればいいんじゃないかというご意見、私も実は内心はそう思っていますが、そっくりそのままというのはかなり危険なので、もちろんチェックをして、そしてどうしてもこういう質問項目が必要だろうということがあれば、直していけばいいと思っていますので、日進市に限らずその他の先行

事例のアンケート調査をどこでもある程度やっていますので、いい質問、いい視点というのが出てくれば、項目に含めたり、質問の大きな項に用意したりということをしていけばいいと思います。小林さんがおっしゃったように、あまり時間をかけて一から作り始めるということは当然、どんな作業でも一か月や二か月飛んじゃいますので、いいものは積極的に活用すればいいかなと思っています。

湯本委員；今、小林委員さんの発言で、ここで色々統計を見たんですが、中野市の場合は25年度の入学予定者が400人でこのまま推移しても2,400人、日進市のほうが5,500人ということになりますと、人口規模ではかなりこっちのほうが少ないんですが、子供の規模というと中野のほうが半分以下なんですよね。それでこのままあてはまるということはいかがかと、この設問を検討するのはごくいいんですが、ある程度そういった資料というものを読み込んでもらってからの設問にしないと、かなりあやふやな問題が出てくるのではと私は思っております。と申しますのはこれは教育委員会にお願いして、小学校中学校、各年度別の新入児のデータをいただいておりますが、30年まで出ていますが大体25年度が400人、それから30年度は330人というような状態にまで1年生が下りていくんですよ、そうした中で6学年としても中野市全体で2,400人位な児童しかいないということ、ここを見ますと5,500人なんていうことになると、人口は少ないんだけど子供はものすごく多い、中野市の場合44,500人程度なんですけど子どもはそんな程度だということで行きますと、このまま答申するという事はかなりの危険性があるということだけご指摘申し上げます。

小島会長；おおよその数でいえば日進のほうは1学年の小学生の児童でいえば、中野市が400であるのに対して800です、2倍。

柴垣委員；私は湯本さんと一緒にこのアンケートをそのまま使うのは無理だろうという気がするんですね。いくつか理由があるんですけども、例えば具体的に2,3指摘するとですね、問6とか問7で、選択肢の①に児童・生徒の一人ひとり目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。というのが票を集めているんですけども、これに丸を付けた人が一体、何人のクラスを求めているのかわからないので、問6、問7はこの集計だけでは全く意味のない設問になってしまっていると、とても挙げられている選択肢は練られていていい内容の選択肢が書いてあるんですけども、これまで進めてきた審議会の議論の中でどういうことを私たちは知りたいかというのを考えて項目を作らなければだめだろうと、例えば同じようにですね問14ではですね、小学校を統合したほうがいいのかという選択肢が2つに対して、しないほうがいいのかという選択肢が3つあると2つしかない選択肢のほうが1項目あたりの賛成者が増えて、一番賛成者が多いのはここだねというように恣意的な結論が導かれてしまうとかですね、前回アンケートの恣意性を除くのはものすごく難しいと申し上げたんですけどもやはりできる限り項目を変えたり聞き方を変えたりして、この日進市のアンケートに含まれている不都合さを除かないと有効なアンケートにならないだろうという気がするんですね。

小島会長；恐らくどんなアンケートもそうだろうと思います。そして質問項目を用意する、調査を準備する段階の問題と、今度はそういう問題が潜在的にどこにもあるので、結果をどう分析するか

というところで、実はここバイアスがかかっていますよというふうに注意深く分析する作業もついてくると思うので両方セットで作業を進めて行く必要があります。

関委員；確か先ほどの会長のお話ですと作業部会を設置して、今おっしゃったような具体的なる設問の項目、言葉遣いなどについては部会でというお話だったと思うんですが、今、具体的にこれではちょっととか、細かいことを言えば私もこれには反対なので、言葉遣いですね、でもそれを今この場で意見を言ってその作業部会に反映されるのでしょうか。作業部会が練るということならば、じゃあ早く作業部会を作って、そこでやってそれを2月の審議会で発表するわけですね。フィードバックがあるわけですね。その時に意見があるならば意見を言うてのほうがいいのでしょうか。

小島会長；いや、会長権限でもう今から作業部会を作ってください。それぞれ3人の方よろしくというふうに持っていけば効率はいいかもしれませんが、あらかじめやっぱり意見を聞いたうえで、全体としてはこういう雰囲気だったなということをおお体掴んだうえで、まあ年明けの作業になると思うんですけども、部会で検討していただくということで。まるっきりここでそれぞれの部会の内容を、例えば部会の4について今、全然話題には取り上げてはいないんですけども、アンケート調査についてもこれだけの意見が出ますので、もちろん関さんがおっしゃるように部会の中だけで検討するというのは結構大変なのは解るし、ここで全部やり始めると部会2はいつになるんだろうということになりかねますので、いたし返しなんですがある程度、今日私、時間を見ながら意見を伺って、あとはやっぱり部会で検討していただいて全体のところへ出していただくというふうに。もちろん会長の私の役割としては各部会へ必ず顔を出して調整を図りたいと思っています。すみません玉虫色で。

北原委員；いろんな意見がございましてけれど、結果的には作業を進めるうえでは、この間も申し上げましたけれども、叩き台というかがどうしても必要なもので、そのためにこの日進市あたりは非常に設問の仕方が単純に〇×ではなくて、何故そういうものを選んだんですかということがちゃんと説明を通っているものですから非常にやり方としてはいいんだと、内容は今、皆さんから意見が出ましたように、やっぱり当市にあてはまるようなやり方というか内容というか設問の仕方が必要だろうと思います。選択肢については今の日進市ばかりでなくて茨城県のかすみがうら市だとかいろんなところでですね設問や選択肢が沢山あるんですね。ですからいいところを選んで、確かに皆さんから、さあ言えといってもなかなかこれは誰でも設問はできないものから、そういったものを参考にしながらやはり叩き台としてこんな物はどうでしょうかということをおまず、小規模の2、3人で作って、それで皆さんに図るというようなやり方をしないとなかなか効率が上がらないのではないかなと思いますので、まずアンケートの内容を要するに設問の仕方、それから選択肢それをまず2、3人がいいのか、それとも一人か二人がいいのか、まず作っていただいてそれをみんなに図るというようなやり方しかないんじゃないかなと思います。

小島会長；他のまだご意見のない委員の方がいかがでしょう。学校を対象にしたアンケートも聞き取りもやりたいというふうに今、話をしているんですが、先生方、上原委員あるいは下川委員いかがで

しょう。

上原委員；そうですね、保護者とか地域の方の意識を是非探っていただきたいとことでアンケートは進め  
ていただきたいと思いますし、今、会長さんがご提案のように作業部会で叩き台を作っていた  
だいて進めていただくことがいいと思うのですが、学校関係者がそれに関わるというのはちょ  
っと私個人的には難しいかなと思っています。この1年かけて私たちが学校は一体どうなっ  
ているんだということでここで話をさせていただいたんですが、中野市はご存じのとおり小学  
校11校のうち適正規模に入るのは1校だけで、あとは中野小学校を除いて全部小規模校なん  
ですね。小規模校は小規模校に対応した教育内容を私たちがこういうふうに今、工夫していま  
すということをやってきた訳です。それでこのアンケートをやった時に、そうやって小規模校  
の教育に対応していますということについて、このアンケートは今の学校のお子さんの様子に  
ついて満足かどうかということは抜きにして、適正な規模について見た場合にどうですかとい  
うことになるんですが、学校関係者にとっては、自分たちが小規模校に対応した教育内容を進  
めることについて満足ですかどうですかという、学校評価アンケートのようなことにも繋がり  
かねないので、もっと冷静に保護者、地域の方の意見を把握していただくっていう点ではどう  
でしょうかね。

小島会長；先生がおっしゃるのは学校教員を対象に小規模校、大規模校だということについて調査をする  
ということの。

上原委員；それは聞き取りで。

小島会長；聞き取りは考えています。もう一方のアンケート調査、つまり具体的には日進市がやったよう  
なこういう質問を一般の先生方に回答を求めるっていうのに対するご意見ですよ。難しい。

上原委員；難しいんじゃないかな、私個人的にはそういう意見です。

小島会長；そういうことを部会の中で議論してもらいたいと思っているんで、色々私も考えはあるんです  
けれど。

下川委員；それぞれ意見はあるんだけど、全体の今の状態で意見を出そうといっても出しにくい部分  
もあるし、やはり部会である程度、こう形のあるものが出てきたことに対してそれぞれ意見を  
言うということの方が思っていることが言いやすいと思うんですよ。今も具体的なアンケー  
トに対してはこの項目はこうだと、柴垣さんがおっしゃるように、そんな形なのでまず部会  
で今言ったような形でスタートしていく方が現実的なのかなというふうには思います。

永池委員；アンケートについては前回、前々回やられている恣意性というか、どんなものを作るかによっ  
て、例えばアンケートなんてやめた方がいいという意見もたくさん出た中で、どんないいアン  
ケートができるのかなとか、もちろんグループを作ればその中で話し合いをするんだらう  
けども、その後また先程のフィードバックをした時に非常に難しいなと思いながらお聞きをし  
ていました。先ほど上原先生がおっしゃったのは、このアンケートの作る場所に学校職員が  
入るのは、ということ。

上原委員；そういうことです。作業部会の中に教職員が入るのはちょっと無理というか。

小島会長；それは会長としては当然というか難しいだろうから遠慮いただくというふうに考えています。

回答する立場としてはいろんな先生方がいらっしゃる、聞き取りでは実は先ほど言ったように主任の学年だ教務だという方、ベテランの方にお聞きするのが清水委員の気持ちも強いようですので具体的に掘り起こしたいということで聞き取りをやるのですが、アンケートについてはいろんな方の先生の意見を、教師の意見を聞くということで保護者とまあ対等にお聞きするということが問題ないですか。

上原委員；それは一つの資料として、その扱い方がちょっと

小島会長；そうですね。この辺も、保護者のを含めて扱い方を考えなければいけないところだと思います。山岸先生いかがですか。

山岸委員；上原先生のお考えと一緒にです。

永池委員；作業部会の3と4が、さて1月にやりましょうという時に何をすればいいのかなというのが、アンケートはもうここで3回目ですのでイメージが湧くのですが、3と4はどこから話を始めるのかなっていうことを感じたので。

小島会長；これは今日このあとの話題で、私自身もさてアンケートのことについては大体具体的なイメージが持てるのですけれども、3と4はなんなんだというのを、恐らくは作業部会の議論の中でそれを考えていただくということにもなるだろうと思うのですけれども、ちょっとこの後、話をしたいと思います。

柴垣委員；アンケートをやるというとした前提のうえでの意見なんですけれど、せっかく校長先生達が出てきていて、先生たちに答えることがないわけでもないと思うんですね、確かに何人の規模が望ましいかという質問には答えにくいと思うんですけれども、例えば人数が多いとどういう困難があるか、どういう利点があるかとか、少ないとどんな大変さがあるかとか、あるいは人数は例えば、20人、10人、5人とどこまでは先生の努力で賄えるかとか、例えば逆に多くなった時も、どこまでは教師の力量でうまく補えるけどもそれ以上は難しいとか、そういうように聞けると、この中で規模を考えていくのにとっても有用だと思うんですね。仮にそういう議論というのは統廃合がする必要がなくなった場合でも、大規模校にはこういう大変さがあり、小規模校にはどういうことを配慮しなければいけないということで、中野市の教育の上で財産になると思うので、教師たちに統廃合に関わるとしてアンケート、聞き取りをするというのはとても有用な事もたくさんあると思うので、聞き方は分からないですけども、何人の規模が望ましいですかという聞き方でない聞き方を先生たちに対してはすればとても役に立つ結果を得られるだろうと思います。

小島会長；その聞き取り調査自体は予定しています。ただし、主任クラスの方という縛りというか制約があるんですけども、それかもう一つは審議会の委員として学校教員の方、管理職の方ですけども学校を代表して来ていただいているということなので存分にここで聞きすることはできるし、今までかなり貴重なご意見をいただいていますので、そこはもう、かなり進んでいるんじゃないかなと思いますけども。

柴垣委員；先生については違った角度での質問にならざるを得ないと思います。上原さんのさっきの発言を聞いても。

小島会長；アンケートでということですね。

関委員；確か前々回の校長先生方のお話の中に、教師たるもの小人数なら小人数なりに、大人数なら大人数なりにやっていくのがプロだというお話を伺いました。これだったら大変でこれだったら楽だよみたいな答え方は先生方はなさらないでしょ。

上原委員；そういうふうに取り返していただき、答えとしてこっちが楽でこっちが良いとか、この教師はこっちが良いと思うんだけどこちらはだめだと思っているっていうふうに取り返してもらってちょっときついなと思うのですが、私たちはごく小規模の学校から非常に大きい大規模の学校まで色々経験して来ていますのでその中で自分として、強いてこのところがとても教育内容が高まるためにといいますか、教育目標を実現するためにやり易かったなとかね、こういうのがいいんじゃないかなっていうことで選んだんだなというふうに考えてもらえば。どこからどこまでとありますけども、その中で強いて言えばこちら辺がいいと思っているという位に思っただけであればいいんじゃないですかね。ちょっと変な言い方ですが。

清水委員；聞き取り調査というのは私も是非、それが出来たらなというふうに考えていますしお忙しい中お聞きできるかなと思ったのですが、その理由は適正規模を考える時に今、いろんなところに調査して意見があるんだけど、それがどうしてそういうふうになったかという回答はないですね。それがひとつと、調査の場合、統計でこれが多いからこっちだとか、そういう判断の仕方もあるかもしれないけれども、しかし内容・質で今まで気付かなかったようなことが聞けるとその事例で目が開けるといえるか、どんな調査よりもすごいなと、すべての人を納得させる感動させるそういう答えも聞きとりなら期待できるんですね。あるいは内容は抽象的なことでなくて、具体的な実践の中での事例、この時はこんなふうに指導しましたということ、その中でアイデア、成功、苦勞、例外、そういうのがその中で自由に出てくるんじゃないか、そういう事をキャッチする。ですから聞き取りは、何かひとつの結論が頭の中であってそこから聞くのではなくて、教育の原点といいますか教育の本質からお言葉をいただきたい、そういう事です。

そんなことで聞き取りがお願いできればということです。聞き取りというのは話し合いをさせていただければと思います。

北原委員；今、先生の中からお話がありましたけれども、今回の統廃合の中でですね、先生方にアンケートを取られるというのが、ある地区であるんですけどもこれはどういうことかという、例えば先生方は忙しい。忙しくてしょうがないとこうおっしゃるんですね。小規模校で忙しいのか、大規模校で忙しいのか、それぞれ忙しさが違うんだけど、小学校中学校高校とそれぞれ違うんですが、小学校では授業の準備にやっぱり圧倒的に忙しい。その次が学校経営、それから事務とか報告書の作成、つまりデスクワークが非常に忙しくてどうにもならない。これはじゃあ小規模校ではどうなんだ、大規模校だったらどうなんだろうというような設問の仕方もあったり。先生方が力をつけたいということでどんなことを考えておられるか、小学校では授業の進め方や指導方法に関する事、あるいは2番目は教科に関する専門性や知識、3つ目は発達障害児の指導に関する事とこういうふうそれぞれ教員として力を付けたいということが

あるんですが、そのための研修とか研究会なんかには出席されているんですけども、なかなか実際のこの辺の結び付きというようなことというのがどうもその実態ではないかな。忙しい忙しいということで結果的にはそうなっている。じゃあその辺が今回の適正規模ということで先生方のご意見がですね、やはりある程度具体的、あまり関係のないことをおっしゃるのではなくてですね、やっぱり今回の統廃合に関して先生方のやはり忙しさを、その中身のある程度明確にしてですねそれが解消できるような、あるいはあるべき姿。上原先生がおっしゃったようにそれぞれ努力をしているんだという言い方もありますけども、先生方はどう考えておられるのかということがやはり今回の、まあこの間、清水先生のおっしゃった内容もさることながらですね、やはり先生方としてどういうふうにかこうアンケートに関わっていかれるかということがやはり大事ではないかなという気がいたします。

上原委員；今、教師が抱えている多忙間の問題だとか、教員の資質向上の問題なのか、そういうことのためにこの適正規模もつなげてこう考えていただくのは大変ありがたいご意見だなと思うのですが、教師の多忙感と適正規模の間に関係があるかどうかということについては、必要条件としてはないとは言わないけれども、今の教師の忙しさは規模だけの問題ではないなということもあって、そういうことをお話を聞きながらありがたい話だなと思いながら、それと適正規模と結び付けていくのにどうやって考察していくかなということをお考えなんですけども、教員の資質向上についても確かにそんな部分とそれだけではない部分とあると思います。大変ありがたいご意見だなとお聞きしていました。

小島会長；北原委員、私も上原委員と同じ意見なんですけど、今の先ほどおっしゃったような内容、アンケートの調査の中に全部盛り込むという必要は全くないので、議論する中で当然そういう疑問とか考え、問題というのは出てくるはずだから、ひょっとしたら我々の答申の中に盛り込むことが良い答申につながるのかもしれないということで是非検討したいと思いますが、いかがでしょうか、伊藤委員いかがですか、私は先ほど言いましたように園の保護者の方へ是非、これは他の審議機会ではない、いい宣伝になるかなと思っていますので、何かコメントおありでしょうか。

伊藤委員；今、お話を伺いしておおよそのアンケートの方向性が何となく形として見えるかなと思っております。1点だけどうなるのかなと思いましたが、部会である程度の形を出して、その後にもう一遍こちらにフィードバックしてもう一遍ご意見を伺うというお話だったと思うのですが、もしかすると根本的にもう一遍やり直しになる可能性みたいなものが出てくる気はしないのかという、どの辺まで部会というものの優先性というのでしょうか、例えば部会に考えるに当たって皆さんからある程度こういうような視点の部分のことは部会の皆さんに是非考えてみて欲しいというような例えばご意見みたいなものがある程度いくつかお話を聞かせてもらおうとかということがあったりとか、それぞれの部会、それぞれの問題に関して、恐らくその後、それを聞いてある程度の部会で方向性を出してそれをもう一遍皆さんに出した時に、盛り込んでみましたがどうかでしょうか的なのになった方が、何か私のところだとかはよくそれをやると、もう一遍ゼロから話が戻っちゃうみたいなのところの心配がちょっとあります。その

ところだけちょっと気になっておりますけども。

小島会長；今の点については、私の頭の中だけで申し訳ない、考えていることなんですけども、作業部会が同時スタートでそれぞれがわっと走り出す訳ではなくて、学校の聞き取りと保護者、教員対象のアンケート調査を先行して、そしてアンケートが出来た段階で園のほうへ作業部会2に叩き台を示して検討してもらおう。そして部会の3、4については、3番のことについてはこの後ちょっと意見を交換したいんですけども、恐らくはアンケート調査の結果を踏まえてというところが大きいだろうと思うんです。実際に配置や通学方法をどんなふう考えたらいいんだろうか、マイクロバスで遠くまで通ってもいいよというふうな答えが出たときに、中野市で実際バスを運行するのにどうしたらいいんだろうか、どこまで走らすのかというような、シミュレーション、私は中野市に住んでいないので具体的なイメージが浮かばないんですけども、その辺はアンケート調査の分析と併せてやっていく。作業部会の4については、これはもうある意味この審議会の冒頭、当初からこういう議論がありました。ですから今までの議論を踏まえてアンケートの結果に左右されないところで、我々のこの審議会の総意というか答申の中にこういうことを盛り込んで是非議論したらいいんじゃないかということからもうスタートしてもらえればいいと思うのですが、アンケートや聞き取りの結果を全く無視して地域とのあり方を答申するということはできませんので最後には部会4を含めてどの作業部会も総合的な議論がここでなされるかと思えます。だから同時スタートでそれぞれどうしたらいいか分からないどうしようという事にはならないように上手く調整を図りたいと思ってます。

伊藤委員；1、2、3、4の部会の流れとしましては今、ご説明いただいて非常によく解りましたのですが、その前にですねアンケートの部会の部分だけでどうなのかなと思っていることがあるんですが、例えばアンケートのある程度の方向性を叩き台を部会で出しました、ただそこには先ほどの話だと学校の先生方がそこに入らなかった形で、しかも人数にすると3人から4人という話になると、非常に少ない人間の意見の中である程度の叩き台が出てくると思うのですが、そうしますと全く違った立場からご覧になっていただいた方から結構いろんなご意見が沢山出てくるんじゃないかなと、そうすると部会でお話をしたものよりも更に時間のかかる全体会に入ってしまう可能性があるじゃなからうかとちょっと考えたのですが。

小島会長；例えば中間検討の審議会を部会で検討した第1次案を持ち寄ってここでみんなで検討しようというスケジュールもありだと思いますし、それから資料を送って意見を求めるというやり方もあるでしょうし、念入りにやろうと思えばいくらでもやり方はあると思うのですが、残念、限られた時間の中でどう進めて行くかということですので、そこまで私作業部会を皆さんこの案で了承していただけるかどうか分かってなかったのもまだ考えてはいないんです、是非皆さんで決めていただければと思っていますが、確かに今のご心配は、まとめていて原案を作った段階で1回やりましょう、でもそれ一か月ごとの審議会のペースでやっていくと年度がまたいじゃいますよということになりますよね、そのご意見もごもっともだと思っています。

柴垣委員；今の伊藤さんの提案を生かすとすると、各作業部会が立ち上がった時に全体審議会委員から、例えば第1作業部会の提言があればいつまでに出してくれとって集めてそれを含めてその

数人で議論をするようにすると、今の伊藤さんの提案が少しは生かせるかなという気がするんです。

小島会長；意見を出すというのはどういう形がいいですか。

柴垣委員；例えば伊藤さんが第1部会のまとめ役だとしたら、他の部では関委員が私はいくつ意見があるので第1部会のご意見に含めて検討してほしいというふうに作業部会に入っていない他の委員も提案をする。

小島会長；皆さんでメールのやり取りができれば、事務局を通さなくてもメーリングリストでボーンと送って、でもこういう審議会のことですのでそういう事は事務局のほうでダメって言われるかもしれません。そういうやり方も検討もしたいのですが、その前に、その話になる前に是非この柱を作っておきたいと思うんです。あと40分、実質30分位になっちゃうと思うんですけれども。作業部会の3、それから4について内容はあまり私の方から話はしなかったのですけれども、おおかたのイメージを持っていただく為にはもうちょっと話し合いをここでしたいのですけれどもどうでしょう。

湯本委員；アンケート調査のことなんですが、今、部会の話でもって伊藤委員さんがおっしゃったことはもっともだとは思いますが、3人でやろうが4人でやろうが部会を作って部会の中でもって叩き台を作ったら部会がそのまま全員会でもって承認されるというようなことではなくて、叩き台をまず作るんだという考え方で作らないと各部会全部そうだと思うのですが、これがあたかも審議会の答申になるよというように考えてたとしてもじゃないが誰も何も言えなくなってしまうと思うんですよ。だから叩き台を作るんだ。叩かれてもいいんだという様なつもりでもっていかないと私はだめだと思うんです。今、柴垣さんがおっしゃったけれども、じゃあ部長さんところへ全部やれと、これではまた部長さん大変すぎちゃって、あちらからもこちらからも、こんな意見もある、あんな意見もあるという事じゃなくて、もう部会は部会でもってちゃんと俺はこういう叩き台を作ったんだという、あとはどこからでも叩いてくれというような気持ちで作ってもらわないととてもじゃないけど進行なんてしないと私は思います。だから私は叩き台が好きなんだけれども、叩き台を作っていた方がいいと思います。

小島会長；ただ、湯本さんがおっしゃるように、みんな叩くために構えているわけではないので、それほど叩かれて打ちのめされる訳ではないと思うので、是非ともいいものを作ってください。ただ、伊藤委員がご心配なのは、アンケート調査は間があること、時間もお金もかけて、手間暇かけてやらなきゃいけないことのやり直しとか、再検討とかってことになるとう時間がずれ込む、ロスがあるということなので、部会3や4は充分時間をかけて答申までにこれを、原案を作るまで、例えば一人で密室で考えることでも作業になりますので、特にアンケート調査ということですね、私自身も結構あります。送ったはいいいけど間違った、一枚抜けていたとか、表記が違っていたとかでまた回収して送りなおすとかってことをやったヘマがありますけれども、そういう事がないように慎重に進めて行くといううへでのご心配だと思いますけど。原案については事務局の方へあげていただいて、事務局の方からメールなり文書なりでこういうのがあがって来たけど、いついつまでに意見をというふうな吸収の仕方がいいんじゃないかなと副会長

さんがおっしゃっていましたが、その辺も踏まえて今日、残りの時間で意見をいただきたいのですが。先程の話に強引に戻りますが、部会の3の適正の配置、通学区・通学方法のシミュレーションというのは、これは北茨城の審議会での報告書にもありましたし、それから日進の検討委員会の報告書にも、今日は資料としてはコピーして示していませんけれども、こんな風に考えられる、方法としてはこういうものが出てきたんだけどもどうだろうか、具体的に考えてみるというふうな作業になると思います。これは現状を踏まえて中野市で今、どんなふうな配置になっているか、学校はどうか、方法はという事で色々な材料を事務局の方に請求すれば用意していただけると僕は思っていますけれども、それらを踏まえて具体的に統廃合のことを念頭に置いたシミュレーションというのが必要になってくると思うので、そういう作業を部会でやってもらえればと思っています。これも具体的な先行事例というのを資料で示したりする必要がもしあれば、ありますのでお示しすることもできます。

北原委員；作業部会3でシミュレーションという事ですけども、会長もおっしゃるように事務局から資料を請求すればということですが、実際どこに住んでおられて、通学距離が大体どうなのか、地理的にバスが本当に通れるのかとか、千曲川のこの間には橋があるのかとか色々地理的な条件とか色々条件があって、出来れば中野市の概要が分かって事務局の方も一緒になってですねシミュレーションのA案、B案、C案になるのかもしれませんが、具体的に進めていかないと、シミュレーションなかなか出来にくいなというふうになる。それを受けて第4部会で、例えばその場合に地域っていうのはいったいどうなるんだろうか。実際、例えば村で夏とかいろいろな行事がある。学校で、越は、倭ですと体育館を借りていろいろ行事なんかやっておられたようです。それもじゃあ校舎をどうするかとか。いろんな地域との関係も、それを受けていろんな問題点が出るのかなという気がしますので、3と4というのは縦の関係になるのかなと、そういう意味では3というのはまず、中野市の実態がよくわからないとなかなか出来にくいかなと思います。

小島委員；縦の関係というのは。

北原委員；縦というのは、統廃合シミュレーションしますね、じゃあ学校区はこういうふうに統合しましょう。学校はこうしましょうというようなA案出ましたとしますと、そうするとこの学校が空いちゃいますね。地域との関係っていうことになると、地域としての問題、例えば倭学区ですと、やっぱり今まで体育館使ってこんな行事やっていた。あるいは避難場所として使っていたとか。いろんな問題がありますけれども、それを問題点としてここはどうなるのかというようなことで、部会3を受けて4が出てくるのかと。

柴垣委員；同時進行ではなく、順を追っての問題だと。

小島会長；わかりました。私としてはそういう関係する問題が派生して、二次、三次的にこういうことが出てくるよっていうことと同時にそういう関係ではなくて、じゃあどういった格好をこれから中野市の教育として、どういった学校がありうるのか。地域はどんな発展、あるいは生活がありうるのかっていうようなこの適正規模、配置とは直接には関わりのないような、我々、最初そういう話からスタートしたと思うんですけども、そういうものも踏まえた議論というの

を、ある意味賑やかにやってもらえば面白いぞっていうふうに、面白がってはいけないんですけども、答申としては豊かな視点が出てくるかなという気がするんですけど。北原さんの意見を否定したわけではなくて。

北原委員；そうするとどちらかというところと一般論みたいになっちゃう。

小島会長；広く教育のあり方を審議しろと言われてますので、そういう味付けというか色彩も当然必要だろうと思うし、私はそれ抜きには、学校どうするって言うても始まらないかなあと。例えば、湯本さん指名して申し訳ないんですけども、小中の一貫のあり方については、ご発言ここでされていますし、新聞に投稿されて私読ませて頂きましたし、それから木島平から関先生に来て頂いて、あそこの取り組みの話を知りました。なぜかというところ、やっぱり直接それが我々の進むべき道だというふうにレールを敷いてはいけませんけれども、そうした選択肢ちょっと有効かなっていうような意見や考え方として知っておくべきだろうし、ひょっとしたらそういう可能性もあるかなっていうことも示す余裕があればいいなと思ってます。すみません、ちょっと喋り過ぎました。

下川委員；作業部会3のところ、最初に適正っていう言葉が出てくるっていうところでスタートしなければいけない部会っていうんですかね。シミュレーションするにしても、そうすると、その部会としては、例えば学級数だとか、児童生徒数がどの程度になるようにシミュレーションをしていくのかっていうところがどうしても引っ掛かってくるような気がするんですが。例えば中野小学校のような大きな学校も解消し、小さな学校の統合を考えてシミュレーションするのか、あるいは小さな学校の統廃合っていうことを念頭においてシミュレーションするのか、あるいはどの規模までのものと考えてシミュレーションするっていうんですかね。だから、例えば本当に1クラスの学級が今、小学校ほとんどになっている中では、例えば学年4クラスっていうような規模をシミュレーションするとなると何校かを統合しないと成り立たないわけですよ。そういう、どの範囲までどういうシミュレーションするのかっていうところが出てこない。それが決まってくないとこうした場合に先ほどの通学路の問題だとか、通学距離の問題だとかっていうところが、こうしたらどうだろうっていう審議会の考えになると思うので、そこがスタートが切りにくいっていうふうに思うのですが。

小島会長；はい。あの会長の立場で発言は差し控えます。いかがでしょう。

柴垣委員；その通りだと思うんです。下川さんの言うとおりのこと。

小島会長；ということは。

酒井委員；中野市立の小、中学校のことを考えなければいけないということがあるので、私たち、どうしても現実的なシミュレーションになった方が考えやすいかなって思うんですよ。一般論の話し合いでもいいんじゃないかって会長さんがおっしゃるんですけども。通学区のシミュレーションっていうと現実をやっぱり考えてシミュレーションをしないと中野市にあった答申が出しにくいんじゃないかなと思うので、アンケートを受けて、じゃあシミュレーションをどういうふうにしたらいのかなって、上からの流れで来た方が私たちは答申しやすいのかなって思ったんですけども。

小島会長；はい。一委員として意見を申し上げますと、具体的にじゃあ、ここと、ここと、ここを統合した時にどうなるんだ通学区、どんな通学方法、学区はどうなるのか、中学校はどうなるのかっていうような具体的なシミュレーションをこの審議会でもやることもできるんじゃないか。それを必ずやらなければならないというわけじゃないですけども。問題っていうか課題はかなりはっきりしてくるはずなんですよね。その上で具体的な戦略って言ったら変ですけども、対策を考えてみるっていうことで、じゃあこれでいこうじゃないかっていうような話は、きっとこの先、教育委員会、市が決定していかざるを得ないだろうと思うんです。

北原委員；長野市の教育委員会では30人2クラスが一つの最低の教育委員会の指針ですけども、それでやった場合じゃあどうなるのか。例えば松本市の場合はですね、最初から小学校4校を統合する。その為にどうするんだというやり方、それが基準で作ってそれで具体的にシミュレーションしている。ですから前提条件を決めようとするとうんちやばり大変なんです。まずそのガイドラインとしては長野県の一学級30人それから2クラスというベースでやった場合こうなる。だけれどもそれはちょっと成り立ちませんねっていったらそれをじゃあどれぐらいにしたらどうなるというふうなことで、ひとつのベースのガイドラインを基準を作ってですね、まあ3案とか4案とかやらないといけない。松本4校の最初から統合するんだというやり方もあるのかなという見方もありますので。まあ非常に前提条件をつくるのは今、皆さんおっしゃったように難しいのかなというふうな気がいたします。

小島会長；ですね。まったく中野市を更地にして、ここに新しい都市を作るんですっていうゲームみたいな感覚で、ぼっと小学校を置いて、道を作って、新幹線走らせてなんていうゲームを私、楽しんだことがありますけども、そういう訳ではなくて、具体的に今ある姿をどう変えていかざるを得ないのか、変えていきたいのかっていうようなところで、提案する材料としてこういうことも考えられるねっていうのを我々は真剣に考えてみたいというところで作業部会が必要だと思います。

柴垣委員；まず会長のこの図でいくと、作業部会3と4はとりあえず必要はないと思うんですね。3は1、2の結果が出ない限り、いろんな方がおっしゃるような具体的なイメージにならないので、とりあえずは必要ないだろうと。第4部会是一般論的な色彩が強くなるので、3みたいに作業部会が原案を作って提案するという内容ではないだろうと。とりあえず、第1部会、第2部会だけを作ったらどうか。あのまあこういうふうな議論になったのは前の議論をまとめないでアンケートに入っていくからなんですけども、アンケートの設問を考える中にこれまでの議論を活かそうということで、とりあえずアンケートの方向にきているので、それを踏まえて考えるととりあえず第1部会、第2部会だけ作って、第3、第4はその結果を踏まえてもうちょっと具体的なイメージを形作っていったらどうでしょうか。

小島会長；いいと思います。同時スタートではないよっていうのは、そういうつもりでも言ったとおりです。ただし、この3、4でやらなければいけない内容については、アンケートが集計が終わって分析も終わってからとなると、うんと先、うんとではないんですけども、かなり先になっちゃって。

柴垣委員；そうならざるをえない。今、みなさんの発言を聞いていると。

小島会長；でも、今からこの部会のメンバーとして張り付けて頂く方にある程度予想しながら、こういう作業が来るよねっていうことで話し合いを持ってもらうことは、1回、2回の話なんですけども、必要だろうと思うんですけどもいかがでしょう。

下川委員；すぐ隣の山ノ内町の小学校の統合の問題があつて、なかなかこう審議が進まないのは、どこに小学校を置くかというところで止まっているというお話を聞いて、統合するのはいいよねっていう賛成意見が多かったんだけど、いざ置く所が、自分の近くなのか、遠くなってしまうのかっていうような問題になってくると、やはり地域の人の意見っていうのはこう変わっていくと思うんですよね。実際、中野の問題としても、この規模、例えば学年何クラス、あるいはクラスが何人ぐらいが適正であると考えます。まあこんな言い方がいいかどうか。だから今後中野市の小学校も中学校も統廃合を考えるために、統廃合あるいは通学区の見直しをすることが良いと考えるっていうのがこの審議会の答申なのか、あるいは、だとすると今の第3、4部会がやるようなことまである程度示したほうがいいのかっていうところじゃないかと思うんですよね。ただ、第3、第4部会の問題になってくると、シミュレーションはいくらでもできるんだけど、統合にはお金っていうのがやっぱりかかる部分が多いと思うんです。ですからそれはこの審議会の中では非常に難しいことなのかなと、例えばこの4つの小学校をたとえば統合した方がいいだろうというシミュレーションをしてこの場所に学校を置くようになった時に、今までの学校が使えるのか、その耐用年数とかですね、あるいは新しくこの場所に作れば、非常に通学区もいいんだけどもといった時に、作れるのか、あるいはそれだけのスクールバスを運用することができるのかとか。今、長嶺のところにトンネルが掘られて、高社学区っていうんですかね、あっちの学区と豊田の学区が道を挟んでつながるような状況ができてきたりして、それがどうなっていくのかっていうこともあつたりするので、本当に3、4の部会のところっていうのは、ここで審議しにくいというか、問題が多いのかな。それでここでは地域に戻して話を吸い上げる必要がうんと出てくるかなと思うんですけども。

小島会長；はい。とっても重要なご意見だと思います。そこまで踏み込んで本当にやれるかどうか、我々責任が持てるのか、そこまではおっしゃらなかったですけど、そういう気持ちで聞きました。

湯本委員；今までずっとお話を聞いていたのですが、今1年でもって400人しか生まれてないんですよ。400人なんです。それで中野市全体ですよ、6学級あつても2400人なんです。この日進のあれでいきますと、日進まではいかななくても、極端にいつて小学校4校、中学校2校あればいいんです。人員からいくと。だけど、それではとてもじゃないけれども、今、先生おっしゃったように、予算もなにもない。そこから始めなければならぬと私は思っているんです。だから第3から始めて、じゃあそれにはどういうふうにやったらいいのかということをもってかないと、あれだこれだ、いや少人数だ、大人数だ。今、先ほども申されたけども、中野小学校をどうするんだ。解体するんかというようなことまでもいってしまう。それにいくまでに、なんかやることがないんじゃないかということ、本当に3から議論していかないと、教育創造論で終わっちゃうんですよね。教育創造論じゃ困るんです。子供たちをどのように地域の役

にたつように、地域の子供たちに育てられるかというのが現状で、今もう中学生の子供たちは高校も義務教育だと思っているんです。ところが親たちは高校のその次どうするのかということを考え、極端なことをいうと、あの先生はちょっと具合わるいよな。中学の先生じゃないよな。というようなことをまでを、極端な親は発言をしております。そのような中で、今本当に考えなければならないことは、私は第3から始めて、第3へもってくまでにどのようなアンケートをとるのかということ逆にもっていかなければ、こうぐじぐじやっていたって恐らくダメだと思うんです。理想論で終わっちゃうと思うんです。

小島会長；はい、ありがとうございます。残り時間15分を切りました。湯本委員のお話ももつともだと思わんですが、アンケートを後にしてこちらからっていうのは、なかなかスケジュール的には難しいと思います。ただおっしゃった内容については総合的な視点で、かなり大きな視野でこの問題をとらえる必要は、先ほどから言ってるように私もあると思いますので、そうした意見を踏まえた答申に向けた検討部会をやりたいなと思いますけども。それを前提にしてアンケートっていうのはちょっと難しいかなと思います。さて、残り時間、今日もこんなふうになって、司会進行ちょっと下手くそなんですけれども。どうでしょう、先ほど言いましたように部会の1そして2を先行して3、4についてはすぐに原案を出すっていうようなことではないが、委員を指名させて頂いて、アンケートの集計結果を見ながら答申に向けた原案を作成できるような作業を用意して頂くというか、準備をして頂くっていうことで部会の代表を私、今日は決めない年が越せないなと思っております。代表だけ決めさせて頂ければ、今日はいいかなと思わんですが、いかがでしょう、いいですか。名前を出しちゃってよろしいですか。私の提案としましては、学校を対象にしたアンケート調査と聞き取り調査について部会の1ですが、アンケートについては柴垣委員さんにぜひ代表をお願いしたい。それで、メンバーはじゃあ私はここで作業をしたい。仕事をしたい。ぜひやりたいっていう方はこの後、募りますけれども。代表としては、アンケート調査を柴垣さん、聞き取り調査を清水さん、お願いしたいと思わんですが、柴垣さんのアンケート調査は、学校、小、中の保護者、そして教員対象にやれるのかっていう意見が出たんですけれども、この誰を対象に、そしてどんなことを聞くのかっていうのを、作業部会でまず原案を作って頂くっていうことですので、それらを含めて今日のやりとりを、参考にして頂きながら、ぜひ部会をまとめて頂きたい、原案を作成して頂きたいなと思っております。清水委員の方は、副会長の立場で学校で長くお勤めになった経験もおありですので、直接、学校のベテランの先生方と対面ですとね、聞き取り調査をして頂ければと思っております。ある程度の腹案というか、案は9回の審議会で示して頂いているんですけれども、聞き取りの内容についてはアンケート調査を踏まえて、ちょっと部会の中で調整して頂ければと思っております。部会2については園を対象にしたアンケート調査、これを伊藤委員にお願いしたいと思わんですが。私、残念ながら中野市の保育園、幼稚園の現状をあんまり具体的なイメージがなくて、実際どの程度のサンプリング、対象を誰にするか、いや、全部ひっくるめていいよって形になるのか、ちょっとよくわからないんですけれども、その辺を具体的にイメージをもってらっしゃるし、園の関係の方も委員に他にいらっしゃいますので、是非とりまとめ、原案作成までや

って頂ければと思っております。それから部会3については、これはもう北原さんしかいないかなという気持ちでお願いしたいのですけれども、ただ、今日、お話、議論がありましたようにシミュレーションといっても、ここと、ここと、ここを統合しますから通学区はどうしましょうとか、通学方法はということでは必ずしもないですよ。で、むしろこういう答申ができるかどうかという事も含めて是非検討して頂いて、万が一、いやこれは難しいということになれば、それは勇退して頂いてかまわないと思っております。それでも適正の配置に関わる通学区の設定とか方法の選択とかこれはぜひシミュレーションしてもらいたいというのが、会長としての要望なんですけれども、その辺を経験を活かして北原さんをお願いできればと思っております。で、部会4については湯本一委員にぜひ引き受けて頂ければ、かなり毎回、湯本委員には刺激的な提言、ご意見を頂いておりますので、私、会長としては期待するところなんですけれども、それも、恐らくはアンケート調査をふまえた調整というか、全体うまく答申として落ち着くって言うとな変ですけども、筋が通るかどうかということまで含めて、ぜひまとめて頂けると。そんな形で、頭に座る人っていうだけの話なんですけれども、作業部会をとりまとめて頂く方を今、部会4つについて5人指名させて頂きましたが、それで意義なしということで了解頂ければ、その各部会へ入って、一緒に作業を進めていく方を今日決めておきたいと思うんですけれども。いかがなものでしょうか。

柴垣委員；質問ですけども、複数エントリーというのは出来るのでしょうか。

小島会長；例えば、部会1の代表を引き受けるけれども、ここもっていう。エネルギーがあれば是非。いろんな人の色々な意見は当然、各部会で反映してもらいたいので、クローズド。閉じた、限られた人だけの議論というのはよろしくないと思っておりますから、今のような提案は大歓迎です。では代表、清水さん、柴垣さんが第1。第2が伊藤さん。第3が北原さん。第4が湯本さんということで、ご異論はないでしょうか。

関委員；質問です。第2作業部会のところ、園の方は伊藤先生ということですが、その中で、PTAというのは1の方に入るんですね。

小島会長；はい。すいません。10月の資料ではPTAと書いてしまいましたが、学校対象のアンケートを保護者。それから、一般教員が入るかどうかわからないんですけども、部会1に持っていきます。だからPTAは削除して頂いて。園の保護者については、学校とはまたちょっと異質で、方法もちょっと違うかもしれないって心配もあったので一緒にはしない方がいいかなと思って部会2でお願いしました。

伊藤委員；そうすると、1と2のすりあわせはどういうふうに。

小島会長；それは年明けてから考えましょう。じゃあ代表は今の5の方に引き受けて頂くということではよろしいですね。ありがとうございます。そうしましたら後は代表でよろしくやってよということではなくて、各委員の方、複数もOKということで、今後の進め方、その前々回の資料には各部会、委員5、6名っていうふうに書きました。あの頭割りやればこのくらいになっちゃうっていうだけの話なので、アンケート調査を優先してやっていくのがいいだろうっていう柴垣さんのご意見もありましたので、5人6人を超えて7、8人になってももちろん構わな

と思うんですが、そうはいつでも学校関係の委員の方がどんなふうに参加できるかっていうとちょっと難しいでしょうかね。そのへんをちょっと確認した上で、少なくとも5、6人っていうメンバーを決めたいと思うんですけれども。アンケートの1、そして2それから3、4は少なめで構わないと思ってますが。

柴垣委員；具体的なイメージとして、違う日に作業部会ごとに時間を設けて集まって、議論する場をもって、その議論の結果をその次の全体の審議会で提案になる訳ですね。

小島会長；そうです。2月の下旬あたりに原案を出して頂きます。事務局それで大丈夫ですよ。1月、審議会もてるってことで、この会場でこんなふうに来ることは出来るってことですので、その日を作業部会の集まりにするということでもOKです。ただし、それだけで済みそうにないよってことであれば、その前にメンバーで集まって頂くってことも、ちょっと忙しい1月ですが、学校のアンケートに関してはぜひ、ちょっと無理をしてでもやって頂いた方がいいかもしれません。そんな感じですけども。それは大前提として4月、5月に答申をとということで、私、やや急いでやっているだけの話で、もうちょっとゆっくりでいいんじゃないかって言ってくれば、2月の先ほど言ったように中旬ぐらいにアンケート調査を実施ってことでも、まあなんとか3月中に集計分析は出来ると思います。ただ年度をまたいで4月からそれを全体検討して、答申までもっていくってことだから6、7月ぐらいまでずれこむ可能性は出てくると思いますが、いずれにしろ、急いでやりたいことには変わりはありません。ではすいません。学校関係の委員の方が学校を対象にしたアンケート調査の作業に加わるっていうのは、私としてはちょっと避けたいんですけども。よろしいですか。先生方それで勘弁して頂ければ、あの存分に学校の主任の先生方に来て頂くか出向くかは分かりませんが、お話を伺う時に、校長、教頭、ぜひその時にも参加して頂ければいいかなと思うので、作業部会の中に入って頂かなくてもいいかなと思うんですが。

小島会長；私、退いて頂きたいとは言わなくて、ごめんなさい。実務的な作業に加わって頂くことは遠慮して頂いて、ただ、アドバイスなり、これどういうことだろうってことは当然出てくるだろうと思うので、そのアンケート調査に対して意見を出して頂くってことはOKで是非お願いしたいと思うんです。ということはお名前だけでも、この部会の中に、入って頂くことももちろん構わないと思います。そうすると学校関係の委員5人いらっしゃる。そうするとどうでしょう。部会1にお二人、そして2、3、4にお一人ずつ位の割り振りで、各部会に学校関係者も入ってもらったということで、メンバーに加わるというのはいかがでしょう。

清水副会長；アンケートの関係と、聞き取りの方の関係と。

小島会長；全員1に入っていていただくという事ですか。

柴垣委員；1Aと1Bがあるわけですから。

小島会長；では、全員部会1に入っていていただいて、聞き取りなのかアンケートなのかはまた中で割り振っていただいても構わないですけども。

柴垣委員；2や3や4に校長先生方が入ってもいいかもしれないし。

小島会長；僕はそう思ったので提案させていただいたんですけども。

上原委員；今のお話は、第1が2つに分かれるので、2，3，4に一人ずつで5名になるという。こういう事でよろしいですか。

小島会長；そうしましょう、今の柴垣委員の提案のように、部会1A，Bと二つに分かれますので一人ずつ、そして2，3，4の部会に一人ずつで全部で5人という事でよろしいですか。  
では、今、人数の割り振りだけは決めて、あとは各部会、手を挙げていただいて私はここ、という事でうまく調整できればいいと思うのですが。

柴垣委員；全員が1に入らなくても、それぞれ校長先生の関心のある領域ってのもあると思うので、1人一つずつ分けなくても、自分の希望するところに行って頂ければいいんじゃないですか。

小島会長；自分の希望するところへ入って頂く、これはもちろんそうですよ。それが一人ずつ、1のA、Bと2，3，4合わせて5人。

柴垣委員；別に3に二人いてもいいし、2に二人というふうになっても。自分の関心のあるところに入ってもらうのが1番活躍して頂ける。

小島会長；それは分かるんですが、他にも委員いらっしゃるから、学校関係者がドッと集まる部会ができてもちょっと困るなっていうので。1人ずつにしました。すいません。職業で分けて申し訳ないのですが。

では部会1のA、アンケート調査、柴垣さん代表でお願いしたところを希望される方、手を挙げて頂きたいと思います。先程名前の挙げた代表を除いて。

(それぞれ挙手をして頂きグループ決めに入る。)

小島会長；すいません。以上のように、部会の所属、代表を決めさせて頂きました。自分がどこかはっきりしない方いらっしゃいますか。大丈夫ですね。そうしましたらまた議事録に合わせてちょっとまとめさせて頂きます。そして次回の1月の審議会をいつということを決めたうえで各作業部会、アンケート聞き取りを先行して審議会の前にやるのか、それぞれ検討して、まず一番大事な審議会をいつかというのを決めましょう。1月30日木曜日にこの審議会、12回目になります。いかがでしょう。実は、月末30、31日に審議会を設定するというのは、1週間前あたり19日からの週、20日月曜日からの週で作業部会、あるいは、その前に集まりを持って頂いて月末の審議会に大方、作業部会の原案の原案ということになるかもしれませんが。報告をして頂いて、当日も作業部会毎に分かれた検討ということで、そんなふうにやりたいなと思っております。まずはじゃあ副会長の日程を優先していいですか。では次回12回目になります審議会は1月31日、末日ですが3時から開催です。よろしくお願ひします。じゃあそれに向けて各作業部会で集まりを至急持っていただく部会の1、アンケート、聞き取り調査が先行するかもしれません。ただ、伊藤代表の方で園の打ち合わせという事もやっていただければどういう様子かが聞けると思います。まあ、それは来年の話です。

湯本委員；よろしいですか、今日、欠席の区長さん方が、このところ3回ぐらい出席してられないんですよね。それは事務局で確認して頂くと同時に、第4部会の地域との関わりという事になる

と、区長さんには、多いに熱弁を奮っていただかなければならないというような、どのようなアンケートになるかわかりませんが。そういったことを考えると、私の希望としては区長さん方に誰でも構いませんが第4部会の方に入って頂ければありがたいかなという気持ちがあります。

小島会長；わかりました。欠席が続いていらっしゃる区長さんも含めて、第4部会に。

湯本委員；まあどうなるかわかりませんよ。区長さんの意見も承った方がよろしいかなと。

小島会長；じゃあちょっと副会長とも相談して。連絡させて頂きたいと思います。他にどうでしょう。

小林委員；先ほど柴垣さん言われたみたいに兼任もできるということで、出れるかどうかわかりませんが1Aのアンケートの方に。他の3名の方が1Aに入られるんなら私、抜けてもいいんですけども。

小島会長；アンケートの方、私、永池先生と入っていますので、小林さんに入って頂ければありがたいと思います。じゃあ今日は以上です

清水副会長；はい。ありがとうございました。ちょっと伸びちゃって恐縮でございました。今日は、今度の進め方ということで、非常に内容の濃い、多様なご意見を頂き、ご協力の賜物でございました。ありがとうございました。以上をもちまして、第11回の審議会を終わりにさせていただきます。ご苦労様でございました。

#### 4 閉会 (17:21)